

- 4号機燃料取り出し用カバーの天井クレーンについては、5月19日より法令に基づく年次点検を行っております。
- この点検の中で走行レールの勾配を計測した結果、レールの一部に許容値を超える箇所が確認されました。今後、レールの傾き修正可否を検討したうえで修正可と判断した場合は修正を行う予定ですが、現時点において点検期限である6月16日までに修正が終わらないと考えているため、当該クレーンの使用を休止することとし、それまでに労働基準監督署へクレーン休止届を提出することとしましたので、お知らせいたします。
- なお、天井クレーンは点検中であり、荷は吊っていない状態であるため、安全上の問題はありません。
- レール勾配の許容値超えの原因は、燃料取り出し用カバーの傾きが影響しているものと考えております。カバー先端については、建設当初の設置位置と比較し、現時点で最大51mmの変位が確認されていますが、当面カバーの倒壊の恐れはなくカバーの健全性に影響を与えるものではありません。

# 天井クレーン走行レールの勾配について

計測箇所	計測値	許容値※ <sup>1</sup> (1/500)	許容値に対する差
柱間隔のレール勾配※ <sup>2</sup>	32mm※ <sup>3</sup>	29.5mm	2.5mm

※1：労働安全衛生法、クレーン等安全規則

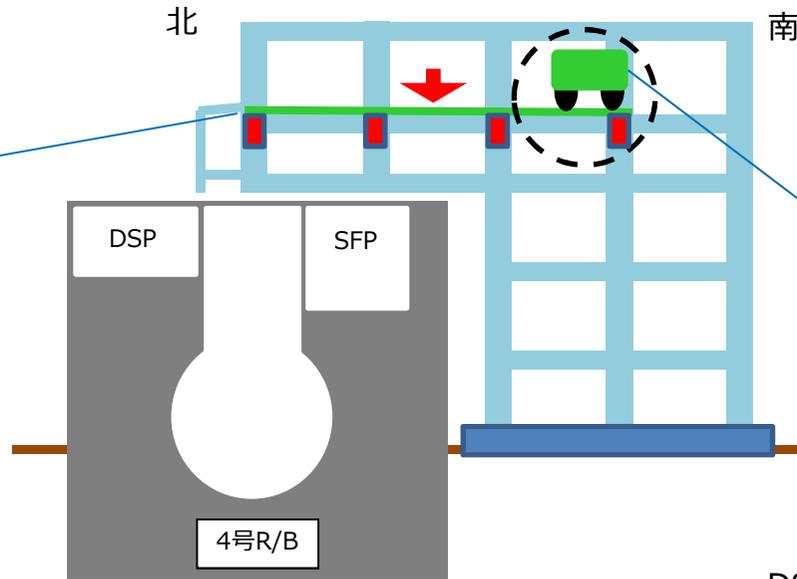
※2：レールを受けるカバー柱（図赤枠4本）、それぞれの間隔でレール勾配を計測

※3：東西レールのうち、東側の中間部分のレール勾配が最も大きかった(矢印)

走行レールは南北方向に設置（東西で2本）



走行レール



天井クレーン

DSP：ドライヤ・セパレータ貯蔵プール

SFP：使用済燃料プール

R/B：原子炉建屋

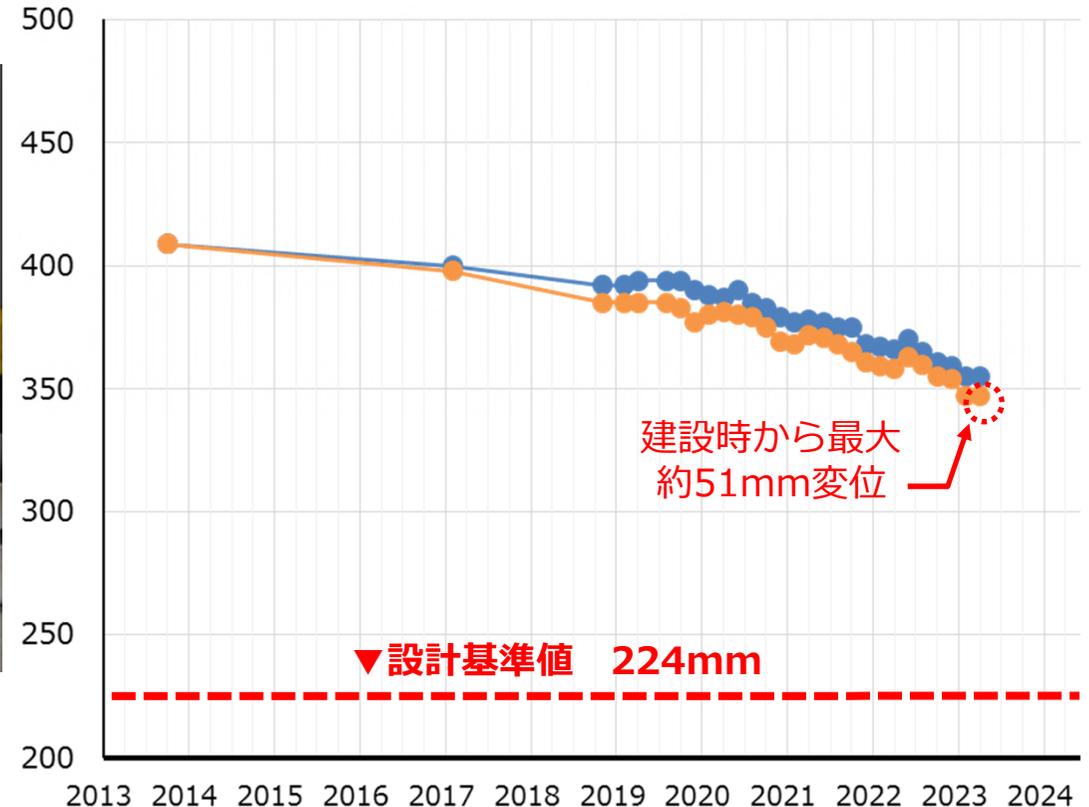
## 4号機燃料取り出し用カバー架構先端部の経年変化

- カバー先端部と原子炉建屋の隙間は建設時409mm、カバー先端部はこれまでに最大51mm変位し、現在のクリアランスは358mmである
- 地震動Ss時に、カバーと原子炉建屋が接触しないための設計上のクリアランスは224mmであることから、当面問題とはならない
- 中長期的には高線量機器取り出し計画に合わせて、カバー架構改造を検討（先端部減築によるバランス改善等を視野）

【隙間測定距離 (mm)】



【梁先端部 計測状況】



※凡例 ● 測定距離 (海側) ● 測定距離 (山側)